

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2004 11 No.636

発行日 2004年(平成16年)11月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人 平本邦夫
定価 100円(税・郵送料込)
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「メチャメチャいい出会い」障害者地域作業所木曜クラブの援助者・山口菜実さん(左)は、1年半前何も知らずに作業所に入った。素の自分を出すことで最初はぶつかったが、次第にその実直さが利用者に受け入れられ、「なみちゃん」と呼ばれた時はとても嬉しかったという。「何故か分らないけど楽しくて、この仕事がすごく好きになりました。朝辛くてもここに来ると楽しいし笑って帰れます。以前はなぜ避けていたのかと思えるくらい、メチャメチャいい出会いを感じています」と笑顔で話す。(写真・文 菊地信夫)

あんどる

世の中は、合併問題でゆれていきます。僭越ながら、私の心もゆれていきます。

野球ファンとはいえない私も、球史上初めて行われた「スト」の重大さにテレビを食い入るように見入った次第です。経営者側が、「選手やファンの気持ちを考えていない」と報ずる新聞もありました。その後、来年度に向けて明るい展望となり、ストは一度だけで回避されましたが、事の起こりである合併は実施され、一球団は消滅する見込みです。

生涯一球団を誓い、親子三代球場に通い続けた熱烈なファンも多いはずですが。

「何故?」、「本当にそれしかないのか」。手を振り上げ、声からし、全身で声援を送り続けた名前が消える。一人ひとりの胸に去来するものはないでしょうか。

今のままでは存続できないということが、市町村合併の理由です。良き結果を願って、決定に至った経過や決定そのものは是非については、歴史の検証にゆだねるしかありません。

しかし、消え去る運命にあるからこそ、言葉にできない、言葉にしない寂しさや悲しみがあることを知って欲しいと思います。

ここで一句「猛牛の消え去る姿わが身なり」

津久井町社協事務局長補佐 両角美雄

目次.....CONTENTS

- かながわ権利擁護相談センターの相談実績から.....2・3
- スペシャルオンラインピクニックスタート.....4
- 消費税法改正のあらまし.....5
- 健康で明るい「福祉社会かながわ」へ.....6
- 長寿社会開発センターいきいきはつらつ.....7
- 連載・つながりをもとめて(8).....10・11